



SENDAI
INTERNATIONAL
MUSIC
COMPETITION

第4回 仙台国際音楽コンクールニュース

ヴァイオリン部門
ピアノ部門

2010年5月22日(土) ~ 2010年6月6日(日)
2010年6月13日(日) ~ 2010年6月27日(日)

CONCERTO

発行：第4回仙台国際音楽コンクール(SIMC)ボランティア広報宣伝サポート
問合せ：仙台市市民文化事業団コンクール推進課(仙台国際音楽コンクール事務局)
Tel 022-727-1872 / e-mail info@simc.jp / URL <http://www.simc.jp/>

2008.4.20

Vol.4-1

interview

インタビュー

第3回 仙台国際音楽コンクールピアノ部門 優勝者

津田裕也さんにお話を伺いました!



—まず始めに、今回のコンクールの感想をお願いします。

今回は幸運にもファイナルに残ることができて、すばらしい賞を頂くことができたのも嬉しかったです。地元のお客さんや、多くの方が応援してくださったのがとても嬉しかったですね。

—優勝されてから、なにか心境の変化はありましたか?

基本的に、音楽に対する姿勢は変わりませんが、すばらしい賞を

いただいたので、賞に恥じないよう、ますます自分に厳しく勉強していかなければならないと思いました。

—昨年の“せんくら”では、仙台フィル首席コントラバス奏者の村上満志さんや、第2回のコンクール ヴァイオリン部門の優勝者でもある松山冴花さんと共演されましたが、いかがでしたか?

村上さんはすごく博学な方で、曲に関する様々なことを教えてくださいました。また、村上さんもベルリンへ行かれていたことがあるので、ベルリンのことなどいろいろな話を聞くことができ、とても楽しかったです。

松山さんは、とても気さくな方で、なんでもフランクに話してくれるので、一緒に練習をしていても面白かったですね。

—昨年の秋から、ベルリンへ留学されていますが、なぜベルリンへ?

土地ということではなく、先生との出会いがあったからです。現在、パスカル・ドヴァイヨンという先生に師事しているのですが、日本でその先生のレッスンを受ける機会があり、そのレッスンがとっても良くて。この先生に習いたいと思い、ベルリンへ行くことを決めました。

—留学生活で驚いたことや、大変だったことなど、なにかエピソードはありますか?

とても驚いたことは、大学では月に1回程、門下ごとのコンサートがあるのですが、特に宣伝もしていないのに、地元の方々が自然と学内のホールに集まってくることです。それを見たときは、音楽が生活の中に根ざしているんだなあ実感しましたね。

大変だったことは、まず入学手続きですね。銀行口座の開設や学生保険の手続きをしなければならず、それがとても大変でした。いろいろな人に助けってもらいましたが……。

あとは、自分が住んでいるアパートの部屋の天井がすごく高いことですね。部屋の電球が切れてしまって、交換しようと思いましたが梯子に上ったのですが、それでもとどかなくて、今はスタンダラップを買ってきて生活しています。大変なことはいろいろあり

ますが、おかげでいろんなことにありがたみを感じるようになりました。それに、なんとかなるさ!と思えるようになってきましたね。

—今後ピアニストとして、どのような活動をしていきたいですか?

ソロも好きですが、室内楽の活動もとても好きなので続けていきたいです。大学の頃もよくやっていたし、すばらしい作品も沢山あるので。

—演奏するとき心がけていることを教えてください。

作曲家の思いや、作品のすばらしさ、精神性などを、自分なりに感じ、自分の言葉で表現することです。

—ピアノを弾かれる際、なにか必ず持ち歩いているものはありますか?

楽譜と爪切り。それくらいですかね。爪が伸びていると嫌ですし、旅先で急に買えない時もあるので、持っていることが多いですね。

—座右の銘は?

『すべてのことに感謝する』です。少し大げさになるかもしれませんが、自分にとって、一見嫌なことでも、何か教えてくれるものだと受け止め、それを自分の糧として、感謝しながら前に進んでいきたいと思っています。

—6月にリサイタルがありますが、このようなプログラムになった経緯などがあれば、教えてください。

今回、後半で演奏するシューベルトの『さすらい人幻想曲』を弾いてみたいという思いがまずあって、そのシューベルトがすごく尊敬していた作曲家がベートーヴェンなんです。そして、前半に弾くシューマンは、シューベルトの死後、彼の家から交響曲を発見したりしているくらい関係のある作曲家で、シューベルトの私情というか、私的なところに強い憧れを持っていたといわれています。そういった意味で、この3人はすごく関わり合いのある作曲家です。そして、今回はシューベルト、シューマン共にタイトルに『幻想』が付く作品を演奏します。この二人が互いに描く、それぞれ違った『幻想』を表現してみたいと思いこのプログラムにしました。

—では最後にメッセージをお願いします。

コンクール後、ソロのリサイタルは初めてになります。コンクールではコンチェルトを中心に演奏しましたが、今回は、一台のピアノで様々な世界を表現します。

すごく好きな作品を集めたので、作曲家のすばらしさや、その作品の素敵などところを伝えられるよう、一生懸命準備をして、演奏できるようにしたいと思いますので、ぜひリサイタルにお越しただいただければと思います。

—津田さん、お忙しいところありがとうございました!



仙台国際音楽コンクール(SIMC)とは?

①成り立ち

仙台市が2001年に仙台開府400年の記念事業として創設し、ヴァイオリンとピアノの2部門で3年毎に開催している音楽コンクールで、2005年に国際音楽コンクール世界連盟への加盟が承認されています。

才能ある若い音楽家を見だし、演奏の場を提供することにより、音楽文化の振興と国際的な文化交流を進めていくことを目的としています。



②参加者数

昨年2007年に行われた第3回コンクールでは、予備審査を通過したヴァイオリン100名、ピアノ113名に対し、ウィーン・パリ・モスクワ・ニューヨーク・上海・仙台の6都市でオーディションを行い、これを通過したヴァイオリン40名、ピアノ37名が仙台での最終審査に臨みました。

③特徴

仙台国際音楽コンクールの特徴は、ソリストとオーケストラによって演奏される協奏曲を課題曲の中心とした世界でも数少ないコンクールであり、若い演奏者にオー

ケストラとの共演という貴重な機会が与えられます。第1回コンクールから仙台フィルハーモニー管弦楽団がホストオーケストラを務め、若い出場者の演奏の成功に寄与しています。



また、次の審査に進むことができなかった出場者の協力を得て、仙台市内の小

学校での学校訪問ミニ・コンサートや、市民向けのコンサートとして、せんだいメディアテークのオープンスペースで無料の『チャレンジャーズ・ライブ』を開催し、子供達や市民との交流を深める場を提供しています。

④ボランティアの運営協力

コンクールのもうひとつの特徴は、多くのボランティアがコンクール運営に協力していることです。昨年の第3回コンクールでは370名のボランティアが、会場運営サポート・出場者サポート・広報宣伝サポート・出場者ホームステイ受け入れ等の部門に分かれ、コンクール運営を支えました。

現在、2010年に行われる第4回コンクールに向けて、すでに活動が始まっています。

入賞者副賞コンサート

第3回仙台国際音楽コンクール優勝記念演奏会

津田裕也 ピアノリサイタル	アリョーナ・パーエワ ヴァイオリンリサイタル
<p>♪東京リサイタル 2008年6月5日(木) 19:00開演</p> <p>♪仙台リサイタル 2008年6月8日(日) 14:00開演</p> <p>♪演奏曲目 ベートーヴェン/ピアノソナタ 第8番 ハ短調 op.13「悲愴」 他</p> 	<p>♪仙台リサイタル 2008年6月16日(月) 19:00開演</p> <p>♪東京リサイタル 2008年6月23日(月) 19:00開演</p> <p>♪演奏曲目 ベートーヴェン/ヴァイオリンソナタ 第9番 イ長調「クロイツェル」 他 ピアノ…ヴァディム・ホロデンコ</p> 
<p>♪会場 仙台/仙台市青年文化センター コンサートホール 東京/浜離宮朝日ホール</p> <p>♪入場料 (全席指定・未就学児は入場不可) 仙台/S席: 3,000円 A席: 2,500円 仙台公演セット券(S席より提供): 5,000円 学生券(A席より提供): 1,500円 東京/一般: 3,800円 東京公演セット券: 6,000円 学生券(当日券のみ50枚): 2,000円</p> <p>♪お問い合わせ 【チケット・電話予約】 仙台/仙台市市民文化事業団 企画調整係 TEL: 022-727-1875 東京/朝日ホールチケットセンター TEL: 03-3267-9990 【公演に関するお問い合わせ】 仙台市市民文化事業団 コンクール推進課 TEL: 022-727-1872</p>	